

武豊町議会議長 青木 信哉 殿

武豊町議会議員 石川 喜次

一般質問の通告について

令和6年第2回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質問事項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
1.AEDの有効活用について	<p><b>【趣旨説明】</b></p> <p>AEDとは、自動体外式除細動器のことで、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常な状態に戻すための医療機器です。電源を入れれば、音声を使い方を順に指示してくれるため、誰でもがこの機器を使って救命活動を行うことができる。</p> <p>心肺停止の人の治療は、まさに一分一秒を争い、電気ショックを行うまでの時間が1分おくれるごとに、生存率は7%から10%ずつ低下し、仮に命が助かったとしても脳に後遺症が残り、社会復帰が難しくなるため、少しでも早くAEDを使用する必要がある。救急車が到着するまで何も処置しないと、助かる命も助けられなくなってしまいます。</p> <p>消防庁の令和4年版救急救助の現況によると、一般市民がAEDを使用した傷病者は1,229人、そのうち1か月後の生存者は618人、生存率は50.3%です。心肺蘇生をしなかった場合は、1か月後生存率が8.5%にまで下がり、一刻も早くAEDを使い、心臓の動きを元に戻し、併せて心肺蘇生法を継続して行うことが救命のためには必要不可欠なことが分かる。</p> <p>愛知万博では300m毎に100台のAEDが設置され、会場内で発生した心停止5例中4例で救命に成功し、社会復帰を果たしている。</p> <p>このことを踏まえ、「AEDの適正配置に関するガイドライン」よれば、居合わせた人に、救命処置をゆだねるという性質上、AEDの使用を促す必要があり、電気ショックまでの時間を短縮するような配置上の工夫など、以下3点が望まれるとしており、1点目として、「可能な限り24時間、誰でもが使用可能とすること。」、2点目として、「施設の見やすい場所に配置し、位置案内のサインボードなどを掲示すること。」、3点目として、「地域のPADプログラム(居合わせた人により、AEDが適切に活用されるように計画・管理すること。)の推進という点で、地方公共団体によるコンビニエンスストアへの設置を推奨する。」となっている。</p> <p>そこで、以下質問をする。</p> <p><b>【質問事項】</b></p> <p>①町内のAED設置数と各施設(公共施設、事業所、コンビニエンスストア、その他)の設置数の内訳はどのようになっているか。</p> <p>②設置場所(屋内・屋外の別も含む。)など、本町のAED設置の考えを伺う。</p> <p>③町民が24時間いつでもAEDを使えるよう、コンビニエンスストアへ町による設置をする考えはあるか。</p> <p>④小中学生へのBLS教育(心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置のこと。)の取り組み状況はどうか。</p> <p>⑤傷病者のプライバシー保護のため上半身にかぶせて使う三角巾を、AEDボックスへ配備する必要があると考えるがどうか。</p> <p>⑥町民へのAED設置場所等の周知方法はどのようになっているか。</p>

<p>2.名鉄富貴駅踏切の安全対策について</p>	<p><b>【趣旨説明】</b></p> <p>富貴地内の一般県道大谷富貴線は、一部の区間を残し両側歩道が設置され、通学路の安全確保とともに、地域住民が安全・安心に通行できるようになっている。</p> <p>しかしながら、富貴駅南側の踏切部については、踏切拡幅により駅舎の移転や駅北側の踏切への影響などの課題解決の見通しが立たなかったことから、踏切内の幅員構成を変更し、片側歩道の暫定型として10年近く前に整備された。</p> <p>現在の踏切内の幅員構成は、片側歩道で北側から車道幅6.0m、歩道幅2.5mで、計画幅員となる車道幅9.0m、歩道幅3.5mに比べかなり狭くなっている。</p> <p>このことから、駅利用の朝夕の通勤・通学時間帯の歩行者の多くが、線路内及び車道の北側の端を通行しており、転倒や自動車との接触する恐れのある危険な状況であり、このままではいつ事故があってもおかしくないと考える。</p> <p>そこで、以下質問をする。</p>
	<p><b>【質問事項】</b></p> <p>①令和5年度踏切拡幅に係る県要望の要旨と回答はどのような内容であったか。</p> <p>②回答に対する町の見解を伺う。</p> <p>③町として、安全対策の検討・整備を実施する考えはあるか。</p>